

飯田紀彦先生 ご退職にあたって

心理学研究科心理臨床学専攻教員一同



飯田紀彦先生は、昭和61年4月に関西大学保健管理センターにご着任以来25年間にわたり、本学の健康管理を一手に担い、特に新型インフルエンザや薬物汚染の拡大防止においては多大な貢献をなさいました。また保健委員会や保健体育委員会、労働安全衛生委員会、薬物委員会、心理相談運営委員会、学生相談主事会、障害者対策委員会、DNA安全委員会、危機管理委員会などの委員を歴任され、ご専門の分野から数々の助言を行ってこられました。

このような多忙な業務のなかで、先生は精神医学やメンタルヘルスに関するご研究を精力的に行われ、巻末に掲載の通り、ご業績は実に著書17編、翻訳3編、学術論文88編、その他の論文38編に達しています。特にQOL（Quality of Life）研究では、我が国屈指の研究者として評され、平成8年に日本総合健診医学会優秀論文賞「椋田賞」、平成13年に日本心身医学会学会推薦論文賞、平成22年に全国大学保健協会推薦論文賞を受賞されるなど、いずれもきわめて高い評価を得ておられます。また日本精神神経学会評議員、全国大学保健管理協会監事、日本学校メンタルヘルス学会評議員、日本心身医学会代議員、日本外来精神医療学会評議員、全国大学メンタルヘルス研究会副会長など数々の要職を歴任され、我が国の精神医学ならびにメンタルヘルスの研究において多大な功績を残しておられます。

一方、教育面では平成3年4月に社会学部教授を兼務されてから「精神医学」「心理学専門演習」「心理学卒業研究」を担当されました。特に専門演習では、学究肌であって気さくなお人柄によるのか、毎年、定員の20名を大幅に超える学生が応募する超人気ゼミとして、多くの学生の卒業論文を指導されました。また平成9年4

月からは社会学研究科で「精神医学」の講義を担当され、平成11年4月からは同研究科で修士論文の指導にもあたられ、優れた研究者や臨床心理士を多数輩出されてきました。さらに本邦第5番目となる臨床心理専門職大学院（心理学研究科心理臨床学専攻 専門職学位課程）の設立に尽力され、平成21年4月より初代専攻長（評議員）として同専攻を統括し、平成23年3月には第1期生33名の修了が予定されています。本専攻には臨床心理士養成に特化したカリキュラムが開設されているだけでなく、学生の将来の進路に応じた実践能力を涵養するためのコース制による専門教育が導入されており、臨床心理士養成に関わる多くの大学や機関から注目されています。

さらに先生のご活躍は研究・教育にとどまらず、精神科医師として行政と連携しながら地域医療の発展にも心血を注いでこられました。東京都台東区保健医療計画推進議会議長、大阪府吹田市保健センター審議会委員、大阪府高槻市高齢者審議会委員、大阪府高槻市社会福祉審議会障害者福祉分科会会長などの学外の大要職を歴任されています。

先生のこれまでの膨大なご業績をすべてご紹介することは紙面の制約上到底できません。先生はご研究、教育、行政すべての面に長けておられる掛け替えのない人材であり、この度のご退職は耐え難く残念なことであります。しかしご退職後、開業を予定されているクリニックで引き続き学生の指導にあたることをご快諾いただいていますことは、専攻に残る我々にとりまして心強い限りです。先生のますますのご活躍ならびにご健勝を教員一同、心から祈念申し上げます。